

## 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	グループホーム和奏のサービス提供は理念に基づき実践しており毎月の職場懇談会やミーティング等で確認しています。玄関入って正面に掲示してあるので出勤時、各職員は確認し業務についています。	事業所では地域密着型サービスの意義を踏まえ、「個人を尊重します」「面白い事を考えます」「健全な経営に努めます」の三つを理念として掲げている。管理者と職員が常に理念を意識できるよう玄関に掲示し、日々の業務にあたっている。また、毎月の職場懇談会やミーティング等の中で確認し合う機会を持ち、理念の共有に努めている。	事業所の理念は、職員間に周知されているだけではなく、職員1人ひとりが理解し日々利用者に関わる際に、どのように具体化し実践につなげていくかが重要である。利用者・家族、地域へも事業所の理念を表明し、職員間でより掘り下げた話し合いや振り返りを行うことで、理念が実践につながるよう取り組まれることが望まれる。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域に出向いてオレンジカフェを小規模ももの木かしわざきと一緒に開催をしています。近隣高校の福祉実習の受け入れを行っています。地域の小学校との交流も行っています。コミセン芸能大会の参加、シニア自慢展へ作品の出品、絵手紙教室、ハーモニカ演奏等交流を図っています。	今年度は感染症予防の観点から地域との交流は制限されている状況であるが、近隣の高等学校から手作りカレンダーをいただいたり、地域の小学校の生徒から手紙や年賀状が届く等、今までの地域との関わりが継続されている。事業所は自治会に加入しており、広報誌を定期的に回覧し地域に向けて事業所の情報を積極的に発信している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	オレンジカフェを地域に出向き開催をしています。認知症予防体操や認知症についての理解を深めています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議には入居者様ご家族に出席して頂いて意見や要望をお聞きしています。また、町内会長、民生委員の方にも出席頂き意見をもらっています。頂いた意見を管理者会議や職場懇談会で検討をしています。	今年度は感染症予防の観点から書面での開催となっている。運営推進会議の構成メンバーである利用者、家族、町内会長や民生委員等へ、事業所の活動報告や事故、ヒヤリ・ハットの発生状況等を書面で報告が行われている。	感染症予防の観点から書面での開催となっているため、事業所からの情報提供はなされているが、双方向の意見交換が十分ではない状況が窺える。今後も書面での開催が続くと思われるため、会議前や会議録送付後等に、サービス向上に向けて積極的に意見や要望を聞き取るような工夫が望まれる。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議のメンバーには柏崎市介護高齢課の職員1名、包括支援センター職員1名の方にも出席して頂き意見交換をさせてもらっています。	市の担当者とは運営推進会議を通して意見交換を行っている。今年度は電話やメールにて感染症対応等について相談や指示を受けている。日頃から連絡を密に取り、協力関係を築くよう取り組んでいる。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	当施設では身体拘束について玄関の施錠は行っていません。身体拘束について職場懇談会で勉強会を実施し職員に周知を行っています。	事業所に隣接する系列施設全体で組織している教育委員会において、身体拘束をしないケアについて検討を行い、事業所の職場懇談会で職員に周知している。日中事業所の玄関は施錠を行わず自由に入出りできる環境を整え、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束に関するマニュアルが整備されているが、研修の実施や研修内容についての記録がなされていない状況が窺える。職員が身体拘束をしないケアについて正しく理解し実践につなげていくため、研修を実施し記録を整備されることが望まれる。
7	(5-2)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	教育委員会主催による研修会で虐待防止について取り上げ研修を行い職員の共有を図っています。	虐待防止に関するマニュアルと対応のフローチャートが整備されており、教育委員会が中心となり研修会を実施し虐待防止について学ぶ機会を持っている。日々のケアの中で、虐待につながるような不適切ケアや言葉遣いが見過ごされないよう、管理者はミーティングや職場懇談会で周知し、職員間全体で虐待防止に努めている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	ケアマネ連絡会で成年後見制度について研修会があり職員に懇談会で説明を行い理解を深めています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前に契約書、重要事項説明書をご家族に説明を行い承認を得てから入居をしてもらっています。重要な個人情報保護の徹底、苦情について、サービス提供内容、料金について理解をしてもらっています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	契約時に苦情等の窓口について十分に説明を行っています。面会時には入居者様の状況報告を行うと同時にご意見や要望についてお聞きしています。	利用者からの意見や要望は、日々の関わりの中で職員が聴き取り、ミーティング等で情報を共有している。現在は家族等が面会できない状況のため直接意見や要望をいただくことは少なく、電話連絡の際に聞き取るよう努めている。寄せられた意見や要望は職場懇談会で話し合い、運営に反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職場懇談会で職員から上がってきた検討課題の共有を行い改善点があれば改善を行っています。また、個人的には前期、後期で面談を行い意見交換を行っています。	管理者と職員は、毎月1回開催する職場懇談会の中で、日々の利用者支援や業務、環境整備等について話し合いを行う他、個別の面談を実施し意見や提案を聞く機会を設けている。職員からの休憩時間は現場を離れゆっくり休みたいとの要望に応え、新たに休憩場所を設定した経緯がある。管理者は職員から出された意見や提案を積極的に聞き入れ運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	処遇改善手当など給与に反映をしています。勤務については希望を聞きながら調整をしています。年休、休憩などきちんと取れるよう各シフト業務の見直しを行いかたよりのないよう労働環境整備に努めています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	各職員のスキルにあった研修情報の提供を行っています。社内研修や職場勉強会でスキルアップを図っています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市内地域密着サービス事業所の意見交換会が市高齢課主催で行われています。困難事例の対応や困った時の相談機関の確認を行い交流を図っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービス開始前に本人様、ご家族と面談を行い意見を伺いプラン作りに活かしています。入居後は環境に慣れ状態が安定するまで十分に時間を取り意見要望を聞き取り反映しています。生活が持続できるよう変化に気づき対応をするよう心掛けています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	本人様、家族様の意向を反映させたプラン作りが出来るよう努めています。施設見学をして頂き施設の雰囲気、職員の対応等みて頂き、また入居後の面会時には情報の共有を図り関係作りに努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人様、家族様の置かれている状況を踏まえ相談しながらサービスを組んでいきます。必要時には関係者を集めカンファレンスを行います。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	生活歴、興味のある物、得意だった事等を把握しその方に合った作業を職員と一緒に提供出来るよう心掛けています。貼り絵等職員と一緒にしています。		
19	(7-2)	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	施設主治医でない方は家族様受診対応をお願いしており受診後は一緒に食事をしたり家族との関係が切れないようにしています。季節ごとの衣類の入れ替えで施設に来て頂いたりして状況の共有を図っています。敬老会は家族様も参加して頂いています。	通院介助や外出・外泊等を通して家族との関係が継続できるよう支援し、関わりの場面作りを大切にしている。毎月1回発行する事業所の広報誌「和奏だより」を家族に郵送し、利用者の日々の生活や活動の様子を伝えている。また、感染症予防の観点から家族との面会ができない状況であるため、体調の変化やケア方法の変更等については電話にて細かく伝え、情報を共有しながら共に利用者を支え合う関係づくりに努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの景色や場所等にドライブにお連れしています。地域コミセンのイベントやお寺で行う節分の豆まきにお連れして関係が途切れないように努めています。	感染症予防の観点から外出の機会が減少しているが、事業所周辺の散歩や利用者が希望する場所へのドライブを支援している。家族や知人との手紙や年賀状の交換を援助し、馴染みの関係が途切れないよう支援に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様が集まる場所で入居者様同士が談笑しやすい場と雰囲気作りに努めています。レクリエーションやコツコツ貯金体操等を楽しんでいます。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	引き継いだサービス機関と連携を図り不安なく過ごせるよう支援をしています。家族様からの相談などがあれば面談を行い解決できるよう支援をしています。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	毎月の職場懇談会の場や毎日のミーティングの際に情報交換を行い入居者様の意向の把握、実施に繋がっています。	利用者の昔は好きだったこと、得意だったこと、食べたいものなどを本人・家族等との日頃の関わりの中で引き出せるよう希望・意向の把握、実践に努めている。毎日のミーティングでは細やかな情報交換を重ね、利用者が好きな編み物を生活の中で提供することで毛糸のたわし作りに繋がっている。	
24	(9-2)	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活環境が急激に変化しないよう契約前のアセスメント情報、関連機関からの情報や本人様、家族様の会話の中から得た情報を生かせるようにしています。	生活環境が急激に変化しないよう、一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、以前のサービス利用の経過等から把握し、家族や関連機関等から情報収集するよう努めている。少しでも早く利用者のくつろげる場になるよう、契約前のアセスメント情報やご本人・家族等の会話の中から得た情報を活かせるよう努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	各担当者より状態確認、今後の課題を挙げ職場懇談会で課題解決を行っています。業務日誌や申し送り事項にて状態の把握を行っています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアの在り方について職場懇談会にて入居者様の課題を抽出し職員の意見を反映しています。また、主治医や看護師に相談をして意見をもらいケアに反映しています。毎月モニタリングを職員に行ってもらいプランを作成しています。	ご本人には日頃の関わりの中で、思いや意見を聞き、家族等からは来所時や電話連絡の機会に聴き取っている。月1回の職場懇談会で利用者の課題を抽出し、意見交換後毎月のモニタリングに反映して現状に即した介護計画を見直している。必要時は看護師等へも相談や意見を求め、柔軟かつ臨機応変な対応ができる計画作成を行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	小さな変化も見逃さないように観察を行いケース記録、業務日誌に記録し職員間の情報共有を図り継続性のあるケアを行っています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時々に応じ業務の内容を工夫しながら、家族様の状況により病院までの送迎を行ったり柔軟に対応を行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源を活用し施設だけで抱えないよう多職種や関連機関と連携を取り支援を行っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	基本かかりつけ医の受診については家族様をお願いをしています。家族様の状況によっては送迎をする事もあり柔軟に対応をしています。指定医に関しては施設看護師が対応しています。	本人や家族が希望するかかりつけ医の定期受診は家族同行をお願いしているが、緊急時には職員同行で代行している。受診時には普段の様子や変化を伝えるために「もの忘れ連絡シート」を活用し、かかりつけ医との情報交換や共有ができています。指定医の場合は施設看護師が対応し、情報共有や家族等の連絡は密に関係性を築いている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	入居者様の変化や気づきについては常に看護師に報告と相談をしています。看護師から担当医に相談を行い指示をもらってケアにつなげています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	各病院のソーシャルワーカーと連携を取り退院前カンファレンスで情報共有を図り症状の把握が円滑に出来るようにしています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時や入居前の面談時に施設で出来る事、出来ない事をしっかりと伝えていきます。現段階は終末期については救急車対応にて病院へ引き継ぐという施設方針を家族様に説明しています。	契約時や入所前の面談時に施設で「できること、できないこと」を丁寧に説明し確認を行っている。重度化や終末期に向けたマニュアルが作成され、救急車対応にて病院へ引き継ぐという施設方針を家族等に説明している。状態の変化に合わせ要介護3以上になった場合は特養の説明や申し込みを関係者と共に支援し取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
34	(12-2)	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	小規模職員通用口にAEDが設置してあり定期的に使用方法の研修を行っています。看護師の指導のもと急変時の状況判断目安等の勉強会を行っています。	利用者の急変や事故発生時に備えて緊急時対応マニュアルが作成され、隣接施設の通用口にAEDを設置し、定期的に使用方法の研修を行っている。応急手当や初期対応については看護師の指導の下、現場での振り返りと状況判断の目安等の実践力を身に着けるよう取り組んでいる。	
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災管理者を個別に任命。防災計画を作成し定期的に避難訓練を行い有事に備えています。年2回地域の方に参加してもらい意見を頂いています。夜勤帯の訓練も小規模と一緒にを行いました。今回、災害対策マニュアルの見直しをしました。	防災管理者を個別に任命し、年間防災計画を作成している。年2回の避難訓練を地域の方の参加や意見等をもらいながら有事に備えて行っている。夜間訓練は隣接の小規模多機能型施設と協力して行っている。今現在、火災・地震・水害・豪雪・原子力等の各種災害マニュアルを現状に即した災害対策マニュアルになるよう地域と連携しながら見直しを行っている。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	理念にある個人の尊重という事を念頭に置き入居様が不快な思いをする事のないような対応を心掛け不適切な発言時は職員同士注意をし合える接遇に配慮しています。	事業所理念には「個人の尊重」を一つに掲げ、接遇マナーやプライバシー保護についての研修を定期的に行い職員全体で取り組んでいる。利用者を不快な思いにさせてない対応を日常から心掛け、不適切な発言や言葉遣いを耳にした場合はその場で職員同士で注意し合うよう努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の生活の中で入居者の言葉を聞く姿勢を持ち意見や要望など話しやすい環境作りに努めています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1日のタイムスケジュールはありますが、体調などを考慮しながら柔軟に対応しています。活動の強制をするのではなくその方のしたい事をしたい時に提供をするよう努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎朝の整容は鏡の前で髪の毛、顔拭きをしてもらい整えて頂いています。髪の毛の伸びた方には理容の予約を入れカットをしてもらいます。季節に合った洋服を選んで着て頂いています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事前にテーブル拭きをして頂き、手を伸ばす事でリハビリも兼ねています。これから食事が始まるというサインにもなっています。食事形態も状態に合った物をお出ししています。	自家菜園は利用者と共に土に触れ、実りを楽しんで一人ひとりの力を活かしながら支援している。口腔体操と食席前のテーブル拭きを自分がすることで食事開始の合図となっている。その日の献立は畑と冷蔵庫にあるものを利用者と相談して決め、旬のものを個々の状態に合った食事形態で提供している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	その方の嚥下機能に合った食事形態で召し上がってまいります。1日に必要な水分量を確保する時間を取っています。10時、15時には好みの飲み物を提供しています。主食の量もグラムを決めて無理せず美味しく食べて頂けるように工夫をしています		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	その方が出来る所はやって頂き必ず看護師や職員が仕上げ磨きを行っています。それにより口腔内の異常の発見が早期に見つける事が出来ています		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	1人1人の排泄パターンに合った声掛けや介助を行いパット内失禁が減るように努めています。最終排便、排尿時間を職員間で共有を図っています。	個別の排泄パターンに合わせて声掛けや排泄支援をし、一人ひとりの排尿パターンを把握することで失禁を減らせるよう取り組んでいる。職員は個々の最終排便や排尿時間を共有し把握することで利用者の自立と習慣を活かし、布パンツへ移行したケースがある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘傾向の方には水分摂取を促し適度の運動の提供をしています。また、看護師や協力医院と連携をとり下剤の処方や相談をしています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	1日の入浴は少人数で、ゆったり、ゆっくり入浴して頂いています。入浴時は音楽を掛けリラックスして頂けるよう心掛けています。入浴拒否があった場合は時間、職員を替えて対応をしています。	入浴は一人ひとりの希望やタイミングに合わせて1対1でゆったりゆっくりを心掛け、季節湯の提供やリラックスできるような好きな音楽を流して工夫している。水虫の利用者専用の足ふきマットの使用や洗身タオルには肌に優しい綿を使用し、入浴後の専用保湿剤を用意してスキンケアに配慮している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼夜の区別を持って頂くため、日中は活動の機会を持つようにしていますが、本人様の生活習慣を考慮し気兼ねなく休めるスペースを確保しています。夜眠れない方には、職員と一緒に過ごし安心できる環境を整えています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	与薬マニュアル作成をしマニュアルに添った与薬をしています。お薬情報ファイルにて副作用などの確認が出来るよう共有しています。状況によっては医療機関と連携を取っています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活の中で役割が持てるよう作業をお願いしたりご自分の好きな活動があれば道具を提供しています。散歩の途中に花を摘んで、生け花をしていた方に生けて頂いて個々の役割を持って頂いています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日は散歩、ドライブに出かけるようにしています。少しでも外の景色を見て季節を感じて頂ければと思います。	一人ひとりのその日の希望に添ってのドライブやお天気の良い日は散歩に出かけ、花を摘んだり生けたりと喜びや張り合いある生活が過ごせるよう支援している。個別ケアとして喫茶店でお茶を楽しみ気分転換を図っている。本人の意向の把握ができない場合は家族等から確認し支援に努めている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的には小遣いとして預らせてもらっています。必要時に買い物に付き添っています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話をかける要望があった場合は職員を通してつないでいます。最近は携帯を持たれ直接かけられる方もいらっしゃいます。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者様同士談笑をしやすい空間作りをしています。ホールの窓から畑や山が見えます。季節の花や作成した貼り絵、日常生活で撮った写真を飾る工夫をしています。	心地よい自然光を取り込み、窓の山々が色賑やかに季節を伝え、いつもある姿が温かな安心感を抱かせてくれる。個々のお気に入りの席で過ごす家庭的な共有空間には、日常生活を捕らえた写真や共同作品等が飾られている。施設内の安全な動線確保することで利用者の安全とできるだけ自立した生活が送れるよう取り組んでいる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ご自分の部屋で過ごされるより共用空間に居られる時間が長いため、席の配置を工夫しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室については家族様に自宅の環境に近い、馴染みのものを持参して頂き安心して過ごして頂けるよう配慮しています。	家族の協力を得て入所前の自宅の環境に近い居室づくりを心掛け、家具や寝具、テレビ等馴染みのものに囲まれる安心した時間が過ごせるよう配慮している。個々の状況に合わせて安全面にも配慮し、できる限り自立した生活が送れるよう支援している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ベッドから立ち上がりやすいようにベッド柵をL字バーに変更したり、状況に合わせて安全に生活出来るよう支援をしています。		